



Q：クローン病とはどのような病気ですか？

A：クローン病（Crohn病）とは、小腸・大腸を中心とする消化管に炎症が起る（ただれ）や潰瘍を生じる、慢性の炎症性疾患です。先月掲載した、潰瘍性大腸炎と似ている点も多く、こゝをまとめて炎症性腸疾患と呼びますが、潰瘍性大腸炎と異なり、炎症は口腔から肛門までの全消化管に起こる可能性があります。

欧米に多く、日本では比較的少ない疾患ですが、食生活の欧米化によって近年増加しています。食物中の物質や細菌が抗原となつて、腸管で異常な免疫反応を引き起こすとい

とが原因の一つと考えられています。

症状は、腹痛・下痢・下血・体重減少・発熱などで、口腔粘膜にアフタ（有痛性の小凹形潰瘍）がみられたり、痔や肛門周囲膿瘍といわれる難治性の肛門疾患を合併するのも特徴的です。病変が小腸のみにある小腸型、大腸のみにある大腸型、両方にある小腸大腸型



に分類されます。薬物療法のほか、栄養療法が重要で、成分栄養剤（エレンタール®）という、脂肪やタンパク質を含まない流動食を使用します。

岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、北口駅前ビル2F（

0555・2888・1001